

心をはぐくむ講座

人権メッセージ朗読に続き、大型紙芝居等を使って子どもの人権や親のかかわりについて具体的な話がありました。人権の意味や大切さを楽しく学ぶ内容でした。

袋井市人権擁護委員の皆さん



ペップトークとは勇気づけトークです。まずは自分自身を勇気づけるセルフペップトークが大事です。ペップトークの4ステップ（受容、承認、行動、激励）を話す中で、ほめるのは存在（思い・価値観・その子そのもの）であり、その承認が大事であることを学びました。

熊切 千晶 先生

自尊心と自己肯定感をもつ意義、また「甘えさせる」と「甘やかす」の違いや具体的な子どもへのかかわり方を学びました。母親を取り巻く人間関係や主婦の一年間の仕事を年収に換算し提示する中で母親への応援メッセージがありました。男女共同参画にもふれ、目指すのは「すべての人が生きやすい社会である」と話を結びました。

村田 美千子先生

同和地区問題の歴史から現状を含み、人権全般について具体的に話されました。最後に「人の心はことばに表れる。」「人間はいたわるものであり、尊敬するものである。」のメッセージがありました。

本間 肥土美先生

令和2年度 各講話の主な内容

「ほめるとは」「しかるとは」について具体的な話がありました。ほめることを勧めますが、どうしてもしかってしまう場合もあるという親の現状を理解し、対処方法も学びました。子育ての振り返りを話の途中におり込み、子育てをするお母さん方に対して共感してくださる場面がたくさんありました。

子ども支援室の先生

「子育てに一番大切なもの」と題し、子どもは必要な時期に身につけなくてはならない力があるということから「自己肯定感」「しつけ」「勉強」と子育てのポイントについて話されました。「ありがとう」の言葉から、ほめる事の大切さも学びました。

杉浦 桂子先生

親業の3つの柱について提示がありました。実際に演習をする中で、親自身のことばかけの振り返りと子どもの気持ちに気づくことを体験しました。子どもの気持ちを耳と目と心を使って聴く大切さを学びました。

竹内 好江先生

子どもには節目節目に育つもの育てたいものがあります。そして親にも子どもに対して「手をかけ、目をかけ、心をかける」時期があります。子どもの発達を振り返り、最後に、がんばっているお母さんへのエールの言葉がありました。

市社会教育指導員

「子どもの自尊感情を高める」ために、子どもの思いに寄り添ったり、親としての接し方を振り返ったりしました。子どもの自己肯定感を育むことを考えながらの参加体験型で、人権について楽しくわかりやすく学びました。

県人権啓発センター指導員